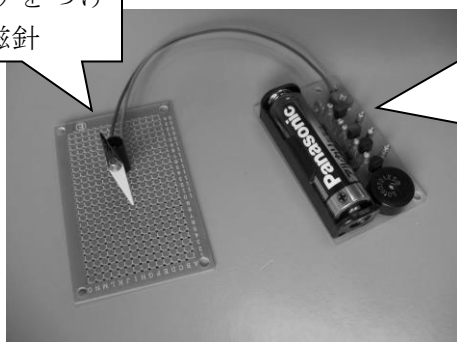


## 簡易型感光器を改造して使う

愛知教育大学 児玉康一

以前に紹介させていただいた簡易型の感光器は、気軽に改造して使うことができます。例えば写真の様に、方位磁針の下に光センサを置くと、針が上に来たときに光をさえぎるので、音が低くなります。これで、音で方位が「大雑把にわかる」方位磁石のできあがりです。本格的な感光器だと、こんなふうに改造してしまうわけにはいきません。他にもいろいろな「盲人用でない測定器」に光センサを付けて ... といった工夫ができるかと思います。この感光器はプリント基板にしていますので、回路の事をほとんど知らなくても、半田付けをやった事があれば、この様な改造はやれると思います。ご興味のある方はご連絡下さい。

光センサをつけた  
方位磁針

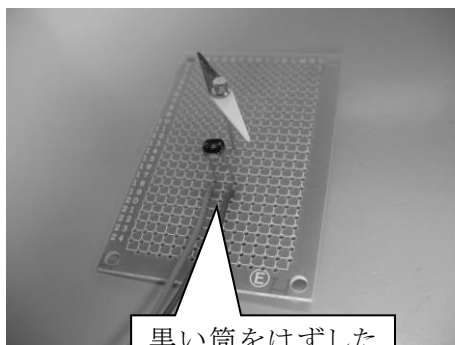


簡易型感光器のプリント基板  
プリント基板上にはスピーカ(磁石です)や電池(金属)があるので、方位磁針から離さないといけません。そのために光センサだけをプリント基板からはずして、リード線でつないでいます。

方位磁針



光センサには、黒い筒をかぶせて、横からの光が入らない様にしてあります。



黒い筒をはずしたところ。これが光センサです。